

事業所の概要表

(令和3年10月19日 現在)

事業所名	グループホームはまゆう堀江					
法人名	有限会社ケアサービスはまゆう					
所在地	松山市福角町甲200番地1					
電話番号	089-978-4521					
FAX番号	089-978-4521					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成14年	12月1日				
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9 人			
利用者人数	8 名 (男性 0 人 女性 8 人)					
要介護度	要支援2	名	要介護1	1 名	要介護2	3 名
	要介護3	3 名	要介護4	0 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	0 人	1~3年未満	0 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 1 人			その他 ()
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	山中内科消化器科内科 佐藤内科 池田歯科クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 6 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000円~38,000円 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	35,000 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	8,000 円
	美容料金	実費 円
	オムツ代金	実費 円
	.	円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 2 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年11月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和3年2月16日 集計

家族アンケート	(回答数)	3	(依頼数)	3
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870102922
事業所名	グループホームはまゆう堀江
(ユニット名)	1ユニット
記入者(管理者)	
氏名	近藤 美由紀
自己評価作成日	令和3年10月19日

<p>【事業所理念】※事業所記入 1.個別的な自製を活かし、家事・菜園・趣味等自発的な活動を家庭的な雰囲気の中で支えます。 2.喜劇音楽を共有できる暖かみのある家庭を実現します。 3.地域 ボランティアの方々や交流を深め安心と快適な環境を提供します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 目標計画：身体機能の低下や変化を理解し日常生活の中で維持・向上を図り 安心な生活支援をする。 目標達成に向けた具体的な取り組み内容： ・転倒し安易に上肢の適宜の運動（散歩 体操 日々の活動等） ・室内・外の環境整備する。（季節毎に室内装飾等共に行い共遊したり、庭の野菜 果物を栽培したり収穫し味覚を味わう等五感を 楽しむ季節を共感する。） ・利用者ひとり一人の思いや特技を日常生活の中で残存機能を発揮させ維持する。（お花活けたり、歌 踊り等好きな機能を活かし満足した生活を過ごす。）</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、植物などが好きな人が入居しており、庭の草木や果樹、畑の野菜などを暮らしの活動に採り入れ楽しみや喜びをつくらせている。庭掃除の後には、きれいになった庭を眺めながら、お茶を飲むような時間を持っている。誕生日には、プレートに本人の希望などを踏まえて料理を彩り良く盛り付け、みでつった赤しそジュースで乾杯している。 近所の人からの野菜等のおすそ分けがあれば、品物を置いておき、届けておいたよと連絡があるなど、距離を持ちながらおつきあいが続いている。地域の人からのいただき物があれば、利用者からも一筆添えてお礼のハガキ送っている。また、管理者（法人代表者）は、地域の人の体調が優れないなどの情報があれば、声をかけに行くなどして気に掛けている。</p>
---	---	--

利用者

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I. その人らしい暮らしを支える										
(1) ケアマネジメント										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いを把握し、一人ひとりの思いや希望が実現できるように努めている。更に担当者がミーティング等で意見交換したり、年初めに利用者の思いや 目標を自筆で短冊に書いて頂き全職員で取り組んでいる。	◎		◎	利用者が自分で七夕の短冊に願いごとを書いたり、正月の書き初めで目標を書いたりする機会をつくり、個々の思いや意向の把握に取り組んでいる。その内容を介護計画にも採り入れている。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	個々の言動や行動で察知し全職員でミーティング等にて意見交換し、更に必要に応じて関係者等も含めて検討している。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	運営推進会議等で意見交換したり 家族等に意向問いたり相談している。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	年初めに個々の思いや 目標等を短冊に書いて頂き日々の記録や介護計画に記録している。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	伝達事項等は申し送り帳 介護日誌 日々の記録にて見落とさないよう努めている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	個々の生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきた事は、生活環境に取り入れサービス内容や状況の変化時は、家族等から収集している。			○	本人、家族から聞き取った、生活歴等を基本シートにまとめている。入居前に利用していた介護事業所などからの情報がある。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)の現状の把握に努めている。	○	起床時個々のバイタルチェック実施し健康管理に努めている。日々、先入観を持つことなく個々の有する能力が発揮できるように努めている。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	個々の状況を把握して安心できるよう努めている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	日々の記録やミーティング等にて意見交換し全職員が把握できるように努めている。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護日誌 日々の記録等にて利用者の生活状態や変化について把握できるよう努めている。					
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ミーティング等にて全職員で検討したり、個々の表情や言動から汲み取り意見交換している。			○	カンファレンス時、職員は、日頃のかかりから得た情報を持ち寄り話し合い検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者 家族の思いや意向に重視し必要に応じて他の関係者等と関わり支援している。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題が改善出来るようにモニタリングを行い実践している。家族 地域の支援も必要に応じて取入れ良い暮らしが出来るように努めている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	個々の思や意向を目標に介護計画に取り入れ反映している。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員で検討している支援内容について運営推進会議や家族会等にて課題分析行い意見交換し反映している。	○		○	利用者、家族、職員の意見やアイデアを反映して計画を作成している。必要に応じて医療関係者の助言を反映している。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	利用者 家族の思いに重視し重度化しても馴染みの暮らしを継続出来る介護計画作成し努めている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	介護計画の中で家族 地域等のインフォーマル支援を取り入れて介護計画作成し協力を得ている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスにて職員で意見交換し把握している。更に日々の実践の中で再検討し職員間で共有している。			○	カンファレンス時に介護計画について意見交換をして把握、共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	問題点や解決すべき課題等が個々の目標 支援計画内容にて実践できたか どうだったか記録し、カンファレンスにて更に意見交換し日々の支援に繋げている。			○	管理者が、その日々に介護計画目標の重点項目を伝え、職員は支援内容を介護記録に記入している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別に日々の記録に随時記録している。			○	変わったことがあれば日々の記録に記入している。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別に日々の気づきや 工夫した支援内容を記録している。			○	申し送り帳に記入したり、口頭で申し送ったりしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画 モニタリングにて1か月ごとに見直しを行っている。			◎	計画作成担当者が責任を持って期間を管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングにて1か月ごとに見直しを行っている。			○	月に1回のカンファレンス時に話し合い、モニタリング記録にケアが実践できたなどを記入している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	個々の状態の変化時は、家族に状況を説明行い随時内容に応じて各関係者と相談し本人 家族の意向に重視し新たな介護計画を作成している。			◎	転倒したり、食事が減ったりした時には、計画を見直している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ヒヤリハット 事故報告書 緊急時の対応等カンファレンスにて行い、緊急案件時はその都度口頭で説明し、連絡事項 申し送り等にて全職員に伝達している。			◎	月に1回、カンファレンスを行い、議事録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議は担当者を中心に情報や気づき等率直に意見交換できるよう事前に雰囲気作りしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は全ての職員が参加出来るように勤務体制等確認し開催日 時間等の工夫をしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	欠席した職員については、議事録にて内容確認しサインをする仕組みにしている。重要な内容については更に説明している。			◎	欠席した職員は議事録を確認し、サインをするしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り帳 連絡事項等にて情報を伝達し記入者確認等明確にて共有している。家族 一般者等の伝言 報告内容は、介護日誌に記入し更に共有出来るよう仕組みを作っている。			◎	申し送り帳で情報伝達をしており、記入した人、確認した人がそれぞれサインをするしくみをつくっている。家族からの伝言や家族に報告した内容については、介護日誌に記入し、情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々の申し送りや伝達事項で情報を伝達し共有している。更に重要な情報は個別に行っている。		◎		
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々の思いや したいことは、全ての職員が把握し更に担当者を決めて叶えられるように努めている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつつている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待つている等)	○	日々の暮らしの様々な場面で個々の能力に応じて自らの決定が出来るような機会を提供している。困難な方については共に話し合いながら行っている。			◎	夏場は、主食をおにぎりにすることが多くあり、利用者におにぎりの具は何がよいか聞いてつくっている。ごまおにぎりが人気のようだ。お昼ごはんをうどんにする場合、「うどんは何にする?」と聞いて、どのように料理するかを利用者に決めてもらっている。また、具材を何にするかなども決めてもらったりしている。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個々の思いや希望等を傾聴し、年初めに短冊して支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々のペースに合わせて支援を行うよう努めている。入浴拒否者にはタイミング等見て行っている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	個々の得意分野を活かし引き出す言葉かけや雰囲気づくりしている。喜び 楽しみは理念であり(共楽 共遊)共に仲間同士の支え合いに努めている。			◎	事業所は、植物などが好きな人が入居しており、庭の草木や果樹、畑の野菜などを暮らしの活動に採り入れ楽しみや喜びをつつている。庭掃除の後には、きれいななった庭を眺めながらお茶を飲むような時間をしている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	意思疎通困難な場合は、言動や表情等から読み取り、各関係者等からの情報聴取したり多様な面から個々の意向にそえる暮らしが出来るように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員は、人権や尊厳について認識し利用者の残存能力 得意分野を活かし役割づくりに重視し取り組んでいる。	◎	◎	○	日々の中や申し送り、カンファレンス時に、管理者(代表者)から排泄時の対応など、職員が気をつけることを話している。管理者は、利用者が納得いくまで説明することに努力している。調査訪問日は、外部から調査員が来る意味を利用者に説明していた。利用者から希望があれば利用者を「～ちゃん」と呼んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な声かけをしないうち配慮してあり、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者の声かけや対応にプライバシーを損ねないよう努めている。個々の状況に応じて介護や誘導の声掛けを行い人前であらさず丁寧な支援を避けさりげなく声掛けや対応に努めている。			評価困難	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	個々の状況に応じて排泄や入浴時は恥じらい心、プライバシー等環境整備を行い配慮している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員は、居室の出入り等には、声掛けを行うよう配慮している。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報については、雇用時契約書にて署名し遵守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の仲間同士の支え愛が充実している。お互いが支え合いながら日々過ごしている。全ての職員は利用者から得ることも多い。感謝の気持ちを伝えて良い関係を構築している。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	全ての職員は、利用者同士の支え合いに感動している。出来ない事 出来ることを分けあひあいで助け合える環境を提供している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	職員は、利用者同士がトラブルにならないよう席配置したり、利用者同士で会話したり、世話役の利用者が配膳 下膳を等残存能力を發揮できるような環境を提供している。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士のトラブルは見られない。必要に応じて職員が介入して橋渡ししている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	個々の人間関係については、関係者から情報得て把握している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者個々の馴染み関係は、入所時把握しており、継続できるよう努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	四季を通して馴染みの場所へ出かけたり、人との出合いを大切に継続している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	退所後も気軽に来所できるような環境に努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候の良い日は毎日散歩している。庭には四季の花、野菜、果物栽培していて、個々の希望によって育成を楽しみ作業したり、収穫して全員で味覚を味わい満喫していた「新型コロナウイルス感染症防止自粛の中でも庭にて活動したり気分転換が図れて過ごす事ができ固定化しないように取り組んでいる。	○	×	○	時期をみて、午前中に、マスクを付けて散歩に出かけられている。みなが出かけることもあるが、数人で出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	徘徊等に地域の人からの情報得て早期解決できる協力も得られた。				◎
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	利用者の身体状況を確認し全員で戸外で活動参加が出来るように取り組んでいる。散歩したり、外気浴、庭の季節の花、野菜、果物等観察したり出来るように取り組んでいる。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外出は、新型コロナウイルス感染症防止のため自粛しているが為外出はしていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は一人ひとりの状態や変化について理解し身体機能維持・向上に努めている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症身体面の機能低下は、個々によって異なり、状態に応じて維持・向上に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自立・自発を理念に掲げ状況に応じて共に行ったり、見守りしたり得意分野を活かせるような環境を提供している。	○			
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の暮らしの中で個々の活力を引き出し発揮できるような行事、楽しみごと等役割、出番を把握している。				◎
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症や 障害のレベルが低下しても、個々のできる範囲で行うよう支援している。趣味や得意分野を活かし役割、出番をつくる取り組みをおこなっている。下膳、夕方になるとカテン閉めが日々の日課になっている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	新型コロナウイルス感染症防止のため自粛中に行っていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個々の身だしなみやおしゃれについては把握している。整髪時ヘアスタイル等自己表現されている。				◎
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	個々の居心地等考慮して一人ひとりの個性や希望に応じて整髪、服装、持ち物等支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に状況に応じて本人の気持ちにそって支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事等は、その人らしい好みの服装で楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	季節やその日の気温に適切な服装で個別にさりげなく支援している。	○	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容はドライブ兼ねて楽しみながら美容室へ行ってたが、新型コロナウイルス感染症防止のため自粛中に行っていない。職員が行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても髪型や服装など工夫して支援している。本人らしくロング髪を結んだり、飾り髪みどめで止めたりしている。				
								開設当初から、食べる楽しみを通じた支援を重視して取り組んでおり、食事の用意ができると、「食事ができました」と利用者に知らせ、自分のお膳は、自分で台所まで取りに行く場面をつくっている。	
								以前、生花の先生をしていた利用者に玄関に飾る花を活けてもらっている。季節を通じて梅仕事や植物の世話など、活動する場面が多くある。また、行事に食事を合わせて楽しめるよう計画をしている。母の日を「利用者の日」と置き換えて、みなでおいしいものを食べてお祝いしている。	
								新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
								管理者(代表者)が入浴前に利用者に希望を聞きながら散髪をしている。衣類は、家族が届けてくれたものを着ている。また、今持っている服を大事に着るようにしている。	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員は、食事のプロセスの意味や大切さを理解している。食事の摂取状況や量を把握している。							
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	日々の暮らしの活動として食事は利用者の楽しみの一つであり配膳、下膳自らい自で収穫した野菜等は利用者とともに献立している。			○	買い物は、管理者（代表者）が行っている。献立は、利用者に関心ながら立てている。食事の下ごしらえや、配膳、下膳は利用者とともにやっている。			
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者と共に季節ごとに自作で作った野菜、山菜などは、下ごしらえしたり、個々の残存機能を発揮して堪能している。							
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	個々の好物・アレルギー等の有無については、入居時に収集し把握している。							
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	四季を感じる旬の食材は、自家製で、利用者にとって自慢であり献立したり、伝統行事等では昔の物を取り入れて想像しながら満喫されている。			◎	事業所の畑で採れた野菜や果物、旬のものを多く採り入れている。庭で採れた梅を漬けたり、畑で採れた赤シソでジュースをつくったりしている。また、ピワやサクラソボなど、季節ごとに、自分たちで収穫して食べている。			
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等）	○	利用者一人ひとりの健康状態を確認しながら見た目も良く美味しく盛り付けの工夫を行いプレート等したり、咀嚼、嚥下、身体機能低下等状況であっても見て頂いてから食べやすい形態にしている。				◎	食事に、いろいろな種類の野菜をふんだんに使用している。		
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々のお茶碗や湯呑、箸は使い慣れた物を使用して自ら配膳準備して食事を楽しむことが出来ている。					◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は、自らのペースで安全に完食できるよう利用者の食事時間を設定し、介助、見守りに重視している。時間かけて自力摂取できるように過度な介助は行わず助言したり混乱せずに食べやすい形態にしている。					◎	◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングとキッチン、体面になっており、調理の音や臭いで利用者同士で献立の会話したり視線がキッチンに向けて食事待ち遠しい雰囲気である。			◎	◎	◎	居間と台所が一体になっており、調理をする音や匂いがする。食べたいものを聞き、その人のリクエストを日常的に採り入れている。食べることを大切にしており、食欲が低下している人などにもその人の状態に応じて対応している。	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	疾病状態に応じて個々の食量や水分摂取量体重等、一日計測し確保できるように努めている。							
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	利用者の身体状態に応じて食事形態や水分量を定め低栄養や脱水にならないよう努めている。							
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員は、日々日誌に献立を記録し、偏りがないように献立の見直しは常時行い利用者の食べやすい調理方法等に配慮している。					○	定期的に話し合う機会は持っていないが、その都度、職員間で話し合い対応している。色のきれいな野菜をふんだんに使用して、彩りよく盛り付けている。	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	野菜は自家製で新鮮なものを調理し、調理器具などは使用後消毒し安全管理に努めている。							
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は、口腔ケアの重要性を認識し口腔内の清潔維持に努めている。							
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	個々の義歯等の有無は、アセスメント表に記入し、口腔ケア時確認するよう努めている。			○	◎	毎食後の口腔ケア時に目視している。		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診時口腔ケアの方法について歯科衛生士から指導受け日常支援に努めている。							
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れは随時洗い洗浄している。							
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	歯磨き・嗽・義歯の手入れは声掛けしながら行っている。定期に洗浄し清潔維持に努めている。					◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じて歯科受診し治療している。							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄パターンや排泄習慣を確認しながら排泄自立に向けた取り組みをしている。日中は、トイレ誘導し排泄促している。				おむつを使用した状態で入居となった利用者について、紙パンツ使用に変更しトイレ誘導等して支援を続け、日中は、布パンツで過ごせるよう状態が改善した事例がある。 本人は、よく話をするようになり、自分の意思を伝えることもでき、明るくなったようだ。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	毎日排泄記録を確認し排泄促したり便秘について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の排泄習慣やパターンを日々記録し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々のオムツの必要性や適切性については、常に見直し一時的に使用したり、状態によって支援している。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄困難は個々によって異なり、改善に向けて取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候に合わせて声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツ使用する時は、家族に状況説明し、必要性・使用するオムツを明確にし、今後について話し合い選択できるよう支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態に応じて 排尿時間 夜間オムツの種類など使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	飲食物の調整や適宜の運動など個々の状況に応じて自然排便促している。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の要望踏まえて回数設定している。季節によって温度調整したり個々の希望もできる限り取り入れて入浴支援している。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	環境整備を徹底し気分良く入浴できるように努めている。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	個々のできる範囲で安心して入浴できるように支援している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。			○	入浴拒む人に対して、原因や理由を解明し、気持ちよく入浴できるように工夫している。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	入浴前には、バイタルチェックを行い健康状態を確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個々の睡眠パターンを把握できている。				日中は、居間や庭に出て活動し、昼寝はせず、早寝して生活リズムを整えることで、薬剤を常用せず安眠できているようだ。さらに、利用者の話をじっくり聞くことや、歩行練習をすること、散歩をすることなど、個々の思いに添うことも安眠につながっているようだ。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠時は、原因解明し、日中のリズムを整え回復するよう夜間に向けて取り組みを行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動 環境や生活リズムを整え安眠できるように支援している。		◎		
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休憩は個々の選択にて自由に取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族さんや関係者に行事等の写真に自筆で書いて葉書出している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人の自筆で葉書出したり、必要に応じて手助け促したり支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	必要に応じて配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	葉書は、個々の大切なバックに入れて時折見たり職員と楽し共有している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	個々の状況に難聴や聴き取り難く葉書で家族等にて理解して頂いている。家族 お孫さんからの葉書を見て楽しんでいる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと						
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	個人は、所持はしていない。				/						
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	新型コロナウイルス感染防止の為自粛にて外出はしていない。必要なものは家族 職員が代買物している。										
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	新型コロナウイルス感染防止の為自粛にて外出は控えている為行っていない。										
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら、個々の状態にて判断している。希望があれば家族に伝えるようにしている。										
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の所持してない為、家族に任せている。										
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、納帳の確認等)。	○	金銭管理は家族さんがしている。やむを得ない場合は、管理方法を説明し本人 家族の同意を得ている。										
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時のニーズに合わせて柔軟に対応している。家族の意向に重視し取り組みしている。	◎		◎	持病の悪化で利用者本人が終末期のあり方を決めないといけない事例があり、管理者は、本人の思いに寄り添いながら、現状や今後のことについて相談に乗ったり、説明したり、点滴に付き添い支援したりした。見送りに責任を持って支援した。						
(3)生活環境づくり					◎										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先アプローチには、四季折の花が咲き・野菜・果物が実り近隣 家族が気軽に出入りできるような環境下で利用者が室内から一望して季節感を感じることができ楽しむことができる。	◎	◎	◎	門から玄関までのアプローチに沿って、草花を整備しており、季節に応じて楽しめるようにしている。5月には、こいのぼりを手作りして、庭に横断状に飾った。						
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をつくそうような設えになっていないか等。)	○	共用のリビングは、吹き抜け構造で明るく開放感あり、温度計設定している。室内は日差しを浴びて観葉植物や装飾・玄関先にはベンチあり。庭が一望でき門扉アプローチにはブーゲンビリアで利用者が眺めて心が癒される楽しみ家庭的な雰囲気になっている。	○	◎	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。					
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	適宜点検を行い不快な音や臭いがないように天井扇で空気循環し更に環境整備に取り組んでいる。				◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関庭には四季折の花 野菜 果が育成 しており、五感に様々な刺激を空間に採り入れ居心地良く過ごせている。						◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。		
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者同士で歌唄ったり、新聞読んだり、テレビ観賞したり思い思いに過ごせている。										
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間から浴室は距離あり直接は見えない。トイレは緊急時必要時の為やむを得ない。										
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族と相談しながら環境が維持できるように、使い慣れたものや好みの物を居室に設定し本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	◎			◎	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。			
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかるところ」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の残存能力を活かし安全に自立した生活が送れるように支援している。食事の下準備 配膳 下膳したり、季節の花探って室内に活けたり、得意分野を活かし楽しく自立した生活が送れるように配慮や工夫している。					◎	◎	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱等招くような物品について検討し一人ひとりの状況を見極め不安や混乱などの妨害物は避け工夫をしている。										
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほつき、織物道具、木工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌はいつでも見れる身近な場所にあり、利用者が読んだり見て共遊している。テーブル上には12干支が飾ってあり個々の干支を確認したり、思いの中ので活かされ楽しませている。										
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	全ての職員が居室や玄関に鍵をかけることの弊害を認識し開放している。	◎	◎	◎					◎	◎	職員は、鍵をかけないことが当たり前と認識しており、玄関は日中鍵をかけていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵については、家族説明に理解図っている。										
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関に鍵をかけないよう外出の察知 外出傾向の把握に努めセンサーにて迅速に対応している。										
(4)健康を維持するための支援					◎										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、等の事項等は毎日バイタルチェック実施し確認している。										
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、等の事項等は毎日バイタルチェック実施し確認している。一人ひとりの身体状況の変化や異常について早期発見できるように記録している。										
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師やかかり医師に気軽に相談できる関係を構築している。重度化の防止や適切に入院に繋げたり、必要に応じて努めている。										

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所時家族に医療機関や医師等について相談している。本人 家族の希望する医療機関に受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の希望された医療機関と連携を図れ適切に治療が受けられるように連携を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院受診については家族に連絡し結果に関する情報の伝達時、必要に応じて相談している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は関係者や家族から情報を交換行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	早期退院できるように病院関係者と情報交換や相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院関係者と連携図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	○ 日常に得た気づきは看護師に伝えて協力医療機関と相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	○ 看護師 医療機関に気軽に相談できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	○ 起床時/バイタルチェック実施し健康管理行い早期発見・治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	○ 内服薬詳細について確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	○ 利用者の服薬は誤薬防止のため管理者が行い更に投薬時再確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	○ 内服薬の副作用等一般状態に変化がないか確認を日常的に行っている。出現した時は、医師薬剤師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	○ 利用者の状態に応じて経過 変化等記録し、医師家族に連絡し情報提供にて漫然と服薬しないようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	○ 入居契約時重度化した場合や終末期に本人・家意の意向を聴取し終末期のあり方について事業所の方針を説明している。更に状態の変化の段階で家族と話し合いしている。				入居時、家族には看とりの指針に沿って説明を行い、終末期のあり方について意向を確認している。持病の悪化で利用者本人が終末期のあり方を決めないといけないような事例があり、管理者は、本人の思いに寄り添いながら、現状や今後のことについて相談に乗ったり、説明したり、点滴に付き添い支援したりした。見送りも責任を持って支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	○ 重度化・終末期のあり方については、職員・係りつけ医・協力機関関係者で充分話し合い事業所の方針を共有している。	◎	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	○ 終末期の対応については、利用者の状況に応じてカンファレンスを行い、職員の意向を検討し、現状では、どこまで支援ができるか見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	○ 本人や家族関係者に事業所の意向や対応方針について説明行い理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	○ 本人や家族の意向に重視し医療機関と連携し職員間で体制を図っている。安心して終末期を暮らせるよう随時意思を確認しながら検討し支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	○ 家族の心情の理解、事情の考慮、精神面への配慮等行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	○ 職員は、感染症や具体的な予防対策についてカンファレンスにて定期的に行い早期発見に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	○ 職員は感染症について勉強会を行い、発生時に対応できるように努めている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	○ 保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し取り入れて新型コロナウイルス感染症対策「どうだったの」全職員で手順 物品等対策学びシミュレーション行っている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	○ インフルエンザ予防注射行い随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	○ 全ての職員は手洗い 嗽を徹底し、利用者 来訪者等についても感染対策の徹底を行っている。新型コロナウイルス感染症対策の最新情報に基づき消毒等も徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の状態や施設の状況を家族と情報交換し、協力得ながら共に支えていく関係を構築できるように努めている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 電話で報告をしている。入居間もない時期は多めに連絡を取り報告を行っている。行事を行った際や年賀状、残暑見舞いを出す際は、ハガキに写真を印刷し、利用者から一筆添えて送っている。 家族には、運営推進会議を要約して送付している。行事を行った際には写真を印刷してハガキを送っている。設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等についての報告は少ない。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が気軽に利用者や職員と接することができるような雰囲気や対応等に努めている。利用者が湯茶を提供したり、一緒に日常的な会話して共楽して過ごせるように橋渡している。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナウイルス感染防止対策のため面会が限られており活動参加はできない。経過見ながら活動に参加できるよう努める。	○		◎		評価困難
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	新型コロナウイルス感染防止自粛のため、面会が限られて来訪する機会が少ない。電話にて必要に応じて報告したり行事等の写真に利用者が自筆でお便り書いて送っている。	◎		◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	定期的に家族の意向等聴取している。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者や家族関係を理解し、面会が少ない家族等の訪来 良い関係が構築できるよう努めている。					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議にて行事報告 設備等は報告している。新人職員紹介は訪来時に個人が紹介するよう指導している。	△		△		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議後家族と地域等出席者が湯茶会にて交流している。必要に応じて運営推進会議前に家族会行い運営推進会議にて検討している。新型コロナウイルス感染防止自粛間は行っていない。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者のリスクについては、家族に説明し同得て各関係者と相談している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族に電話にて説明し、必要に応じて面談し意見 要望等相談している。訪来は新型コロナウイルス感染防止自粛ため、面会は控えている。			○		電話で状況報告を行う際には聞いている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の締結、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解し同意書を得ている。。解約はしていない。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居については、契約に基づき、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、退居先に移れるように支援している。退居先事例はない。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。料金改定はしていない。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所は、設立段階から事業所の目的や役割等説明し地域との交流を図っている。		◎		近所の人からの野菜等のおすそ分けがあれば、品物を置いておき、届けておいたよと連絡があるなど、距離を持ちながらおつきあいが続いている。地域の人からのいたadakいがあれば、利用者からも一筆添えてお礼のハガキ送っている。また、管理者(法人代表者)は、地域の人々の体調が優れないとの情報があれば、声をかけに行くなどして気に掛けている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の一人として日常的な挨拶から近隣との交流を幅広い分野で深い、良い環境で暮らしの継続が出来るように努めている。畑で出来た野菜や果物を頂いたり、旅行のお土産頂いたり、行事の材料を準備したり、日頃から関係を構築している。		×	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の協力者が増えている。庭で利用者が活動中、地域の方が自作物の差し入れに訪来された。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方が畑から自作物を届けに来られたり、季節の花を届けて頂いている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、頂きものしたり、差し上げたり等日常のおつきあいをしている。新型コロナウイルス感染防止対策自粛のため合う機会は少ないが互等で交流している。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣の住民が行事等に差し入れて頂いたり、四季折に日常的な協力を得られている。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	散歩中に地域の方と挨拶交わしたり、地域役をして回覧板届に訪問したり、ふれあう機会をつくっている。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	日頃から理解し、地域活動は、回覧にて情報得たり、近隣の方から教えて頂いたりしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域各関係者構成で開催している。利用者は、訪来者の接待を行っている。専断に利用者の意向などを聴取している。新型コロナウイルス感染症対策自衛のため会議は、職員と利用者で行い他の参加は文章による意見交換で行った。	◎		○	家族には、案内と内容を要約したものを送付している。 市の担当者、地域の人には案内と報告書(写真付き)を送り、意見等を聞いている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議では、自己評価・外部評価の結果報告し意見交換し検討した。			○	利用者の日常の様子などを写真付きで報告している。 2年に1回の外部評価実施後は、評価結果や目標達成計画について報告を行ったが、毎年行う自己評価実施時は、報告を行っていない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域参加者メンバーが認知症や身体拘束等の資料を持参し意見や提案等日々のサービス向上に取り組んでいる。事業所でのサービス支援が身体拘束にならないか会議で報告し、意見交換している。			◎	○	地域の人から報告書の写真掲載について、個人情報の取り扱いについて意見があり、事業所では、家族の同意を得ているが、この機会に再度確認を取ることにした。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議の日程や時間は、家族 地域の参加者メンバーに事前相談して参加しやすいよう配慮している。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議議事録内容は、公表している。					
IVより良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全ての職員は、理念について認識し、日々の実践が理念に基づいたものになるよう努めている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者 家族が施設見学時点で理念は説明し、室内に掲示している。	◎	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	全ての職員に外部研修が受けられるように回覧にて取り組みしている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職場での実践の中で訓練したり、カンファレンスにて内部研修を行っている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の環境によって、勤務形態や希望を取り入れ労働時間など考慮している。給与・職場環境・条件等の整備に努めている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流を図り、職場内 環境 研修などの意見交換できるように努めている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	全ての職員のストレス解消多様な面で給料日に食事会していたが、新型コロナウイルス感染症対策自衛のため施設内でお茶会等行っている。	○	○	○	○	管理者(法人代表者)は、日頃から職員の体調など気を付けてみており、気になる様子があれば、声をかけるようにしている。 また、給料日には、職員にケーキを用意して労っている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待や不適切なケアについてその都度検討して理解している。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスについて日々のケアについて話し合う機会をつくっている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	全ての職員は、虐待や不適切なケアについて理解している。カンファレンスにて意見交換し確認しながら行っている。行なった場合についての対応方法や手順について周知している。				○	事業所内研修時に事例を出して勉強をしている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務形態や勤務内容を点検し利用者へのケアに影響しないよう注意している。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全ての職員に「対象になる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」について理解している。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	カンファレンスにて利用者の状況を担当者が報告し課題を全職員で検討したり 話し合い身体拘束にならないケアに取り組んでいる。					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	運営推進会議にて身体拘束内容を説明し緊急やむに検討している。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	専門家より青年後見人について制度や利点などを学び理解している。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者や家族に適用者がいないが相談など時円滑に支援できるように努める。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターや専門機関から必要な利用者には、制度を利用できるように努める。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	自己発生時の対応についてマニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員は利用者の急変時や事故発生時には慌てず適切な処置が出来るよう訓練を定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットにて職員間で検討する等再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりの状況からカンファレンスでリスクや危険性想定し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はありません。職員は苦情時の対応は理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情はありません。苦情が寄せられた場合は、苦情処理の手順によって報告する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情内容を検討し速やかに回答するとともにサービスの改善の経過や結果報告を行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	事務所の前に相談窓口設置している。利用者の意見や要望は適宜聞いている。			◎	管理者(法人代表者)は、事業所の運営面についても必要時には利用者に説明をしている。行事の折りの食事内容について利用者の要望を聞いて反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議前に個別に家族面談し機会をつくっている。相談窓口は、事務所前に設置している。	○		○	家族へ電話等で連絡する際に聞いている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項に掲載している。必要に応じて窓口の情報提供を行う。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員の意見や要望・提案は適宜寄せられ直接聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者本位の支援をしていくための運営方針は全職員に周知している。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価については、理解している。				2年に1回の外部評価実施後は、運営推進会議時に、評価結果や目標達成計画について報告を行ったが、毎年行う自己評価実施時は、報告を行っていない。モニターをしてもう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価内容に応じて課題改善に向けて実践している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標計画を作成し達成に向けて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターを行った。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて目標達成計画に取り組む確認を行った。現状維持継続。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアル作成し周知している。リビング内に掲示している。				年に2回、事業所内で避難訓練を行った。近隣の空き地にて地域住民や消防署、地主、会社管理職の方も同席で訓練を行った。(意見書内容参考)
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	新型コロナ感染防止自粛の為自主訓練実施。小規模企業なのでさまざまな時間帯を想定して職員2名体制グループで訓練計画している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者と行き、避難経路はリビング通路などに掲示している。備蓄の点検は行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域住民や近隣の連携を図り、協力・支援体制を確保している。合同の訓練は新型コロナ感染防止自粛の為行う機会がなかった。災害時には相談し協力得られている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	自治会の災害対策に参加し取り組みに努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	新型コロナウイルス感染防止自粛の為外出は最小限度とし取り組み活動していない。利用者の安全管理に努めている。				相談支援の取り組みは特に行っていない。 事業所前の道沿いのホームの表示下に、シニアまもるくんの家であることを表示している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	新型コロナウイルス感染防止自粛の為外出は最小限度とし利用者の家族のみで外部面会 対応も行っていない。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域からはカフェ・地域の集まりの場等交流の場所提供して頂いたが新型コロナウイルス感染防止自粛の為外出は控えて活用していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	依頼があれば協力できるが依頼がなく行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	新型コロナウイルス感染防止自粛の為行っていない。			△	